

# 書評

## インソールマニュアル 第2版

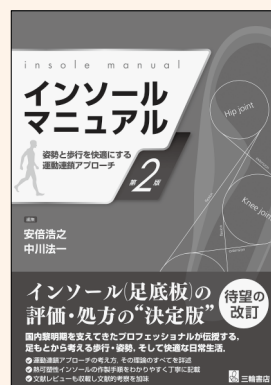
姿勢と歩行を快適にする  
運動連鎖アプローチ

安倍浩之、中川法一（編集）

B5判・184頁

定価：4,620円（本体4,200円+税10%）

三輪書店刊、2022年



〔評者〕鈴木重行 名古屋大学名誉教授

2012年に初版が発刊されて以来、約10年の歳月を経て、待望の第2版が発刊されることになった。この間、著者らは数多くの人々に本書で紹介されているインソールを作製し、その効果を実感するとともに、多くの論文からエビデンスを注入し、改良を加えながら経験を重ねてきている。これらの集大成が本書にまとめられており、インソールをスポーツ選手や患者様に提供する機会のある医師、セラピスト、義肢装具士にとって必読の書となっている。

本書では、インソール作製ならびにインソール作製のための評価には解剖学、運動学の基礎のなかでも、特に足部の異常から波及する運動連鎖を静的、動的の両面から理解することが非常に重要であると論述している。殊に、距骨下関節の過度の回内が足部のみならず、膝・股関節、骨盤、脊柱など全身のアライメントに影響することを強調している。

インソールの緩衝作用・負荷の分散効果とバランス・姿勢制御の向上効果、さらには各種運動器疾患に対するインソールの効果について、詳細な文献レビューがされており、著者らのエビデンスに対する意識の高さがうかがえる。

インソール作製のための評価は、情報収集から始まり、7つの項目に細分化され、インソール独自の用語も登場するが、それぞれ丁寧に評価の実際について、多くの図あるいは評価表とともに記述されており、理解しやすい。

本書の中心的内容の1つである熱可塑性インソールの成型方法においては、ウインドラス式に対する著者らの方法（メディゲイト式）の優位性をまず論拠したのち、扁平足に対する熱可塑性インソールの効果について、歩行時足底圧に着目しデータ紹介している。さらに、成型時の座位と立位の肢位比較では、足底圧分布や歩行時の足圧中心軌跡のデータ分析

から、座位成型法の優位性を示しており、エビデンス構築にも積極的な姿勢がうかがえる。

熱可塑性インソールの作製方法は、多くのページにわたって、作製時の写真を供覧しながら丁寧に説明されている。これほどの作製方法の説明をしていることから、インソールは業者に作製依頼をするだけでなく、競技選手や種々の疾患を有する患者様の状態をよく理解しているセラピスト自身もインソールを作製すべきではないかということ発信しているように感じる。さらに、インソールをセラピスト自身が作製できるようになれば、利用者サービスの面からだけでなく、セラピストの職域拡大にも寄与できるという著者らの熱い思いが伝わってくる。

インソール作製の必読書として本書を推薦し、今後のインソール領域の発展を期待したい。